

第四十五回 顎関節の関節円板の異常による血流障害

車のショックアブソーバーは車輪と車体との衝撃を吸収するものですが、片方のショックアブソーバーが壊れますと車体が片方に傾き車体全体に歪みがおこるものです。

人間も顎関節円板の異常をおこすことにより顔のゆがみ又は体全体に歪みをおこすものです。車の後の左右のショックアブソーバーが壊れますと尻もちをついた様に後がさがり前方が上がるものです。

人間ではオープンバイトといって前歯の上下の歯があたらなく奥歯の1~2歯しかあたらなくなるものです。

又片方の関節円板に異常をおこしますと左右の歯の咬み合せが狂うだけでなく頭蓋骨の左右の後の後頭骨が前後にお互いにズレをおこすものです。

そして後頭骨が後にズレた左側は目の視力が反対側より悪く反対側のほほ骨は前へ出てその側の鼻が詰まるものです。

左右共後頭骨が後へズレますと左右の視力が悪いことになります。

人間の体は一部分だけが悪いということはありません。

例えば肩が凝るというならばその側の足のつけ根の肢関節に異常をきたし、そして心臓と心臓に關係する首の骨の頸椎1番、胸椎1・2番の異常をおこしているはずで、又、みぞおちの横隔膜も上にあがり逆流性食道炎をおこし、頭の大脳はその側の後寄りに異常をおこすものです。そしてこれらの症状をとるにはその側の奥寄りのどこかの歯の咬み合せが低いのを治せば、肢関節・心臓・頸椎・胸椎のズレ、肩凝り、横隔膜・大脳の異常反応も消えるものです。

歯の咬み合せのどの部位が高いか低いかは、足・手の各指、又は足の裏・足の甲手の甲の内側・外側に反応が出ているものです。

又脳の大脳にも反応が出ているものです。

肝臓が異常をおこしているならば、右の腕のヒジ、右の足のヒザに反応が出ているものです。反応を消すには右側のどこかの歯の咬み合せの高低を治せばよいものです。

水臓ならば左の腕のヒジ左の足のヒザ、そして左側のどこかの歯の高低を治せばよいものです。腎臓ならばその側の足の足首、そしてその側の手首、歯ならばその側の前寄りの歯の咬み合せの異常をおこしているものです。

両足が内股ならば左右の奥歯の歯が低すぎるだけでなく両肩・心臓・みぞおちに異常をおこしているものです。

逆に外股ならば左右の奥歯が高すぎるだけでなく左右の手首と腎臓に異常をおこしているものです。

この様に歯の咬み合せのバランス(左右、前後、対角線)は体の骨格、そして1番大切な血流をよく流すかにより病氣と深い關係をもっているものです。

薬・健康食品等を服用していますと必ず手の指・足の指の第1関節から先つまり爪の部分にすべての手足の指先に血流障害をおこすものです。

又歯科では頭蓋骨がズレた状態及び体がズレた状態で歯に物を詰めたりするものですが高い詰めものだと患者は文句をいうものですから低く作っておけば文句なんかは言わないものです。

この様に低く作るとますます体のバランスが崩して体をこわし病気を引きおこし、薬で症状を押さえ、仲々治らなく薬漬の生活を強いられ薬の副作用でさらに次の病気をおこすし薬の量もさらに増えて……。この様に薬はプラスの面もあればマイナスの面もあるものです。マイナスの面を少なくするには血流をよくするしかないものです。

血流は酸素・白血球等色々な栄養物を運搬するものですが血流が悪いと内臓始め体全体が弱り不必要なものを排泄する力がなくなるものです。

(水俣病のように家族全員が同じ食事しているが体の弱い人だけが不必要なものを排泄出来なく溜めてしまい……。)

顎関節円板がズレているかは人さし指の爪側を上歯の歯肉又は歯にあてた状態で左右一緒に奥へ入れていくと骨と骨との隙間が左右違っているならば関節円板がズレをおこし、頭蓋骨・体全体がズレていくものです。

この状態を左右均等にもってきますと歯の咬みあわせが変わってくるものです。

但しこれだけではありません。頭蓋骨の中心に位置する蝶形骨の左右の突起は左右の親指で上の歯の咬合面(歯の横ではない)に沿って奥へ指を入れて歯を通り越してさらに奥へもっていくと蝶形骨の突起に触れます。この突起が前後、上下にズレをおこしますと頭蓋骨だけでなく体全体のズレをおこしていることを意味し、つまり血流が悪い(冷え症)ということです。つまり病気に対して治癒力が弱いということです。